青梅市文化財ニュース

第４３９号

令和６年５月１５日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684　℡0428-23-6859)

青梅市指定の文化財・国認定の重要美術品　『銅鐘』

青梅市には多くの寺社があります。人々に朝晩（朝昼晩の場合もあり）に時を知らせ、寺の行事等で鳴らす銅鐘があることは知られています。その中で、市の有形文化財に指定されているものや国の重要美術品として認定を受けているものがあります。今回は市内霞地区の寺社にある３つの銅鐘を紹介します。

【根ヶ布　天寧寺　銅鐘】

創立は寺院のホームページによると、天慶年間(938～946年)に平将門の開創であり、曹洞宗の名刹「高峰山天寧寺」と称されたとされています。その後、火災に遭い、廃寺となりました。文亀年間(1501～1504 年)、此地の領主将門の後胤三田弾正平政宗の帰依によって、再興されました。

山門を通ると、左手に入母屋造りの鐘楼(写真１)が見えます。

写真１－鐘楼

そこには、高さ 123.3cm、口径 67.3cm、厚さ 7.3cm の銅鐘(写真２)があります。この鐘に銘文が刻印されており、『(前文略)大檀那平氏朝臣将門之後胤三田弾正忠政定刻鐫大工源定次　大永元年辛巳孟冬十日』と刻印されています。

写真２－鐘楼

平将門の子孫を名乗っていた三田弾正忠政定が大永元(1521)年に寄進したものと考えられます。

三田氏は 13 世紀末から約 300 年ほど、羽村付近（現・羽村市）からその西部の多摩川流域を支配していた豪族です。隆盛を誇ったのは、1500 年代の初期の氏宗・政定親子の時代です。市内にある社寺の造営を行っています。また、刻鐫大工源定次とありますが、鋳工（ちゅうこう）の名はありません。しかし、千葉県の清澄寺（鴨川市）・茨城県の大宝八幡(下妻市)の銅鐘が同一原型であることからから塚田（埼玉県寄居町）の大工道禅が作ったものとされています。昭和 23(1948)年、国の重要美術品として認定を受けています。

【今井　薬王寺　銅鐘】

写真３－鐘楼

今井１丁目の薬王寺にある、市内唯一の鐘楼門には、戦禍を免れ、市内で鋳造（ちゅうぞう）された鐘があります。地域の人々に、１日２回時を知らせています。山門に鐘楼が併せもつ形式の寺は、全国的に珍しいとされます。

銅鐘の側面には「寛政六年　正月如意珠日　武州入間郡今井邑　醫王山　薬王寺住　秀剛自題　助願主　勧善房　青梅裏宿住　鋳師　嶋村照思（恩）」と陽鋳（浮き彫り）されています。寛政６(1794)年に、秀剛という住職の時、近隣の信徒から浄財を集め、市内裏宿に住んでいた嶋村照思（恩）が鋳造したものであることが分かります。

銅鐘の底部からの高さは 131cm、口径の 70cm ほどあります。側面には、梵鐘の功徳や雪山偈ともいう諸行無常の偈が陽鋳されたものとして、また市内で制作された唯一の銅鐘とされており、大変貴重なものです。そのような理由からも昭和 39(1964)年に市指定の有形文化財の指定を受けました。

【塩船　観音寺　銅鐘】

写真４－鐘楼

つつじで有名な塩船観音寺には、数多くの文化財があります。その中の一つ『銅鐘』は市の有形文化財です。銘文に刻まれた内容から寛永 18(1641)年に、住職である法印智賢（ほういんちけん）の願いにより、杉本坊権大僧都良忍（すぎもとぼうごんだいそうずりょうにん）の菩提を弔うために鋳造されたものであります。高さ 91cm、口径 67cm の大きさです。銘文には「武州杣保小曽木郷塩船村　西光山無量寿院塩船寺奉如往古鋳造銅鐘一口　諸行無常　是生滅法　生滅々已　寂滅為楽　天長地久　壇越繁栄　寛永十八年辛巳三月吉日　住持法印智賢　本願　杉本坊為権大僧都良忍菩堤也　施主近藤惣太郎　大工櫻澤市兵衛尉盛次」施主の近藤惣太郎は南小曽木の人であり、鋳物師の櫻澤市兵衛尉盛次（さくらざわいちべえじょうもりつぐ）は、羽村の五ノ神に住んでいた鋳工の棟梁であったと言われています。

製作者が分かっており、青梅市近隣で鋳造されたことなど、経緯が分かる銅鐘としてこちらも貴重なものです。この銅鐘は永年保存のため、現在は打鐘（だしょう）はせず、使用する際（除夜の鐘等）は別の鐘を使用しています。この銅鐘を設置している鐘楼の茅葺屋根の腐食が進行したため、令和５年度に葺き替え工事が行われました。

（文責　塚田直樹）

【参考文献】
広報おうめ「ふるさとの文化財」　６号、137 号、149 号
文化財ニュース 316 号「青梅市郷土博物館企画展「戦国時代の青梅」」